

SCHOOL DATA

〒286-0205 富里市根木名1005-3
TEL.0476-92-0662 FAX.0476-92-0682

■児童数/279人 ■教職員数/19人 ■周辺環境/森林、水田 (平成20年5月1日現在)



太陽光パネルと風力発電



ビオトープの改修(粘土貼り)



総合学習で植樹

ビオトープの概要

A. 田んぼビオトープ

- 場所/学校敷地内
- 面積/約150㎡
- 設置者/児童及び教職員
- 設置した年/2005年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/児童及び教職員

B. 学習林・根木名の森

- 場所/学校敷地に隣接
- 面積/約1,000㎡
- 設置者/児童及び教職員
- 設置した年/2002年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/児童及び教職員

<コンセプト>

①ビオトープの構成

田んぼビオトープ

池、湿地、田んぼ、小川などで構成されている。

学習林・根木名の森

クヌギ、コナラ、カエデなどの雑木林で構成されている。

②設置の目的

「豊かな心をもち自ら学ぶたくましい児童の育成」のため、生きる力を育む総合的な学習に取り組んでいく。根木名の環境のよさに気づく環境学習を総合的な学習の基本におき、一人一人が環境に配慮した積極的な行動がとれるようにするため、環境や環境問題に対する知識や技能を身に付ける。ビオトープは上記の目的を推進するための中核として位置づけている。特に、ビオトープは地域の豊かな自然環境と教室を結び、児童が安心して学び遊べる身近な自然環境として活用していく。



生息している生物

<田んぼビオトープ>

植物:イネ、ガマ、クロモ、カヤツリグサ、ショウブ、オナモミ、セリ、オランダガラシ等

動物:メダカ、トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、クサガメ、ギンヤンマ等

<学習林・根木名の森>

植物:クヌギ、コナラ、カエデ、クリ、ヤマザクラ、ヤマノイモ、ヤマユリ、ナルコユリ、アズマネザサ、スミレ等

今後生息させたい生物

ヘイケボタル、サワガニ、フクジュソウ等
*学習林の下に湧水がある。そこには、ヘイケボタル、サワガニ等が生息している。田んぼビオトープの水の循環を完成させ、ヘイケボタル等を生息させたい。また、地域の植生等もビオトープに反映させたい。

ビオトープの活用方法

- 理科、総合的な学習の時間の学習の場・教材として活用。
- 授業参観や地域開放日にビオトープを公開する。また、学習発表会では、ビオトープの生き物の観察会を児童の企画で実施する。
- 印旛沼環境基金成果報告会で、ビオトープでの活動経過を報告する。

<活用例>

- ①理科:3~6年生の理科学習では、植物や動物に関わる各単元でビオトープを活用している。例えば、「動物の誕生(5年)」の単元で、ビオトープのメダカを採集し、産卵させた卵を活用してその変化について調べる。また、メダカのえさとなる水中の小さな生き物についてもビオトープで調べる活動をしている。
- ②生活科(1・2年)、総合的な学習(3~6年):ビオトープでの実体験を中心に活用している。例えば、「輝け根木名の森(6年)」では、身近な根木名の森(学習林)やビオトープの田んぼ・池、地域の畑との関係を調べ、その保全方法を考える活動をしている。また、ツリーハウスを建てるなど、年度によってビオトープの活用方法も工夫している。

ビオトープの効果

■児童への効果

- ①自然に対する関心が高まり、問題を追究しようとする意欲が高まる。
- ②教科や領域などで学んだことを生かす活動を取り入れることにより、問題解決能力が高まる。
- ③自然のすばらしさに気づかせることにより、自然を守り育てようとする心情が高まる。

■教職員への効果

教科学習や総合的な学習の教材を得られると共に、児童と共に自然のすばらしさを共感することができる。

■保護者、地域住民への効果

地域を対象にした観察会により、根木名の豊かな自然環境に対する認識を深め、自然環境を守る心情を啓発する。

■その他、期待される効果

児童、教職員及び地域住民がビオトープで学び活動することにより、里山の動植物のつながりを考えるとともに、その生態系を理解し、よりよい環境を守り育てる実践力を育むことができる。

保護者、地域との連携

保護者

毎年2月、児童はビオトープ等での活動報告を行う。生活科・総合的な学習の発表である。保護者は、児童の発表を通してビオトープについて理解していく。

地域住民

地域の学区連合の協力により、児童の米づくりの支援を受けている(5年生)。地域の本物の田んぼでの体験学習で、本校の総合的な学習の中核となっている。学校の田んぼビオトープも同様に支援を受けている。今後も地域の協力を得ながら進めていく。

NPO

NPO法人水環境研究所から児童(4年生)や教職員が、北総地

域の湧水とその特徴について指導を受けており、今後も、ビオトープの活用や管理についてアドバイスや指導を受けながら進めていきたい。

その他

地域の「ホタルを守る会」などの市民団体や成田空港が取り組んでいる「里やまビオトープ」との連携を考えていきたい。

整備・活用・管理等の課題

本校の学校ビオトープの整備や管理は下記の3点である。ポイントは②である。特に活用については、教育課程に位置づけ生活科・理科・総合的な学習の時間を中心に行っていく。

- ①学校の科学委員会が日常の維持管理を行う。
- ②総合的な学習の時間に、ビオトープの整備等を行う。
- ③PTAが年2回程度、除草作業を行う。

今後の展望

本校の周辺には、里山を中心とした豊かな自然環境が残されている。学校ビオトープは、あくまでも地域の自然と教室を結びつける中継地点である。また、学習の場としてだけでなく、子どもたちが安心して遊べる活動場所であると考えている。

今後は下記の3点を目標に取り組んでいきたい。

- ①生活科・理科・総合的な学習を中心に、新しい学習指導要領のもと環境教育の視点で教育課程を見直し、ビオトープ及び地域の自然環境を有効に活用していく。
- ②保護者、地域、NPOとの連携協力を今後も重視し、ビオトープ等の管理・維持・活用を図っていきたい。
- ③成田空港のビオトープや近隣の小学校のビオトープとも情報を交換し、児童が中心となって情報を発信していきたい。

整備を担当した教員の感想

本校の児童は、理科や生活科、総合的な学習を通じて、様々な生き物とふれあってきた。そして、普段何気なく当たり前のように接してきた「根木名のよさ」に気づくことができるようになってきた。地域の谷津で湧水について学んだ児童は、地域の自然について次のように書いている。「わたしが一番びっくりしたことは、根木名にこんなともきれいで豊かな自然が、数え切れないほどあったことです。この自然をこれからも、守っていききたいです。」

子どもたちのこのような願いを実現するためにも、学校ビオトープや地域での自然体験活動を推進し、学んだことを生活に生かし、身近な自然に対して進んで動きかける子どもたちへと成長させていきたい。



ツリーハウス